

【若狭町】
校務DX計画

1. 趣旨

若狭町では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から ICT 環境の整備を進めてきました。しかし、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。これらの課題を解決するため、本町では教職員の働き方改革の一環として、校務DXを推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとします。

2. 若狭町における課題と校務DXに向けた取組について

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）を踏まえ、若狭町における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要があります。

(1) 校務支援システムの導入

令和7年度より県内で導入している校務支援システムを導入します。導入時には、現在の校務内容の見直しを行い、管内での教職員の異動の際にスムーズに校務が行えるように、校務内容の統一化や無駄を省くよう検討を重ねております。

また、保護者連絡アプリを導入により、学校からの配布文書のデータ配信や名簿情報のデータでの直接取り込み、出席簿への出欠情報の直接反映が可能となり、必要な手入力作業の軽減、校務の効率化、ペーパーレス化を図ります。校務における業務負担の軽減により児童生徒と向き合う時間が確保され、教育の質の向上や管理されたネットワーク上で情報が管理されるため、情報セキュリティ面での向上が見込まれます。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

若狭町において、令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、一部で保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されています。今後、若狭町では、教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

(3) クラウドサービスの活用

メールやグループウェアを活用した情報共有や連絡は、ある程度浸透しているが、一部では会議資料や研修資料の印刷配布、クラウド提出可能な書類の印刷物提出といった慣行が残っているのが現状です。学校間におけるクラウドサービスの活用状況にばらつきがみられますので、積極的な活用を進めることで、業務の効率化やペーパーレ

ス化が推進されます。